



## 仮訳

### 日本 WE リーグにおけるリーダーシップの変更に関するウィメン・スポーツ・インターナショナル (WSI) の声明

ウィメン・スポーツ・インターナショナル (WSI) は、スポーツや身体活動に関わるあらゆるレベルの少女と女性の機会を向上させることを使命とする、エビデンスに基づく擁護団体です。私たちは、国連経済社会理事会の諮問資格を有する 2 つの女性とスポーツの団体のうちの 1 つであり、ユネスコ、国際オリンピック委員会、その他の主要なスポーツ団体などの組織に対し、少女と女性がスポーツ分野で公平な機会を得られるよう、政策と実践について助言を行なってきました。

日本のスポーツはアジアのスポーツ界をリードする重要な存在であるため、WSI は、日本の女子プロサッカーリーグ (WE リーグ) において、女性役員 3 名が男性役員 3 名に交代させられるという最近の決定を耳にして、非常に憂慮しています。この措置は、スポーツ指導者における男女平等を大きく後退させるものであり、WE リーグが設立されたエンパワーメントの原則に反するものであると私たちは考えています。

WE リーグの決定は、いくつかの点で懸念があります。日本のスポーツ庁によれば、国内のスポーツ団体は少なくとも 40% の女性役員を置くことが求められています。現在 WE リーグが提案している変更案はこの要件を満たしておらず、女性役員の割合は 36% に留まっています。また、WE リーグには、リーグに加盟する条件として、すべての加盟クラブに 50% 以上の女性役員を置くことを義務づけるという原則があります。WE リーグは、今回の変更により、役員に占める女性の割合が 50% を下回ることになります。このことはリーグの信頼性を損ない、指導的役割を担う女性の地位向上という創設理念への公約を損なうことになるでしょう。

私たちは、この変更理由の一部を理解しています。そして、変更の決定を妨げるつもりはありませんが、前述の通り、私たちの懸念は、WE リーグが女性にとって影響力の少ない役割にとどまる選択をしてしまうことです。女性役員を男性役員に置き換えることで、WE リーグの財政状況が改善されるという根拠はありません。男性役員の方が資金調達により成功するという前提には、データや過去の裏付けが欠けています。

ビジネスやスポーツ・マネジメントに関する研究によると、指導者の性別にかかわらず、女性のスポーツに関心を集めることは常に課題であることが明らかになっています。実際、この課題を克服する上で、男性の方が効果的であるという証拠はありません。アメリカ、オーストラリア、



ニュージーランドのように、女性スポーツへの関心と資金援助が増加している国の状況は希望を与えてくれますが、これらの発展は決定的なものではありません。重要なのは、3人の男性役員を加えることでリーグの財政見通しが大幅に変わることを示すデータはないということです。逆に、スポーツ界のリーダーシップにおける女性の割合が低いと、関係者全員に悪影響が及ぶという十分な証拠があります。意思決定の場における女性の声が弱まることは、男女平等の進展を逆行させる恐れがあり、特に女性リーダーの育成を目的として設立された WE リーグにおいてはなおさらです。

私たちは WE リーグに対し、自らの価値観に反するこの決定を再考し、WE リーグのリーダーシップの下で公正かつ平等な意思決定を通じて引き続き主導していくことを強く求めます。

敬具

ダイアン・ハフマン

ウィメン・スポーツ・インターナショナル

会長